

小學開發唱歌集 下卷

K/2073
8a
2

K120.73

8a

2

W25188/23

開發唱歌集 下卷

目次

- 第一 志々雪聲
- 第二 諫のみち
- 第三 うきぢ
- 第四 学びのすめ
- 第五 陽田川
- 第六 招魂社
- 第七 東孔もか

小冊子
三三三
一
三三三
三三三

精藤加門專樂
纂編郎一

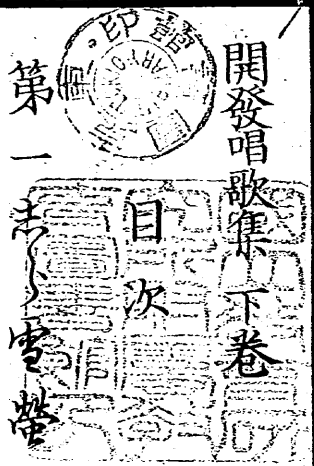
學小

集歌唱發開

卷下

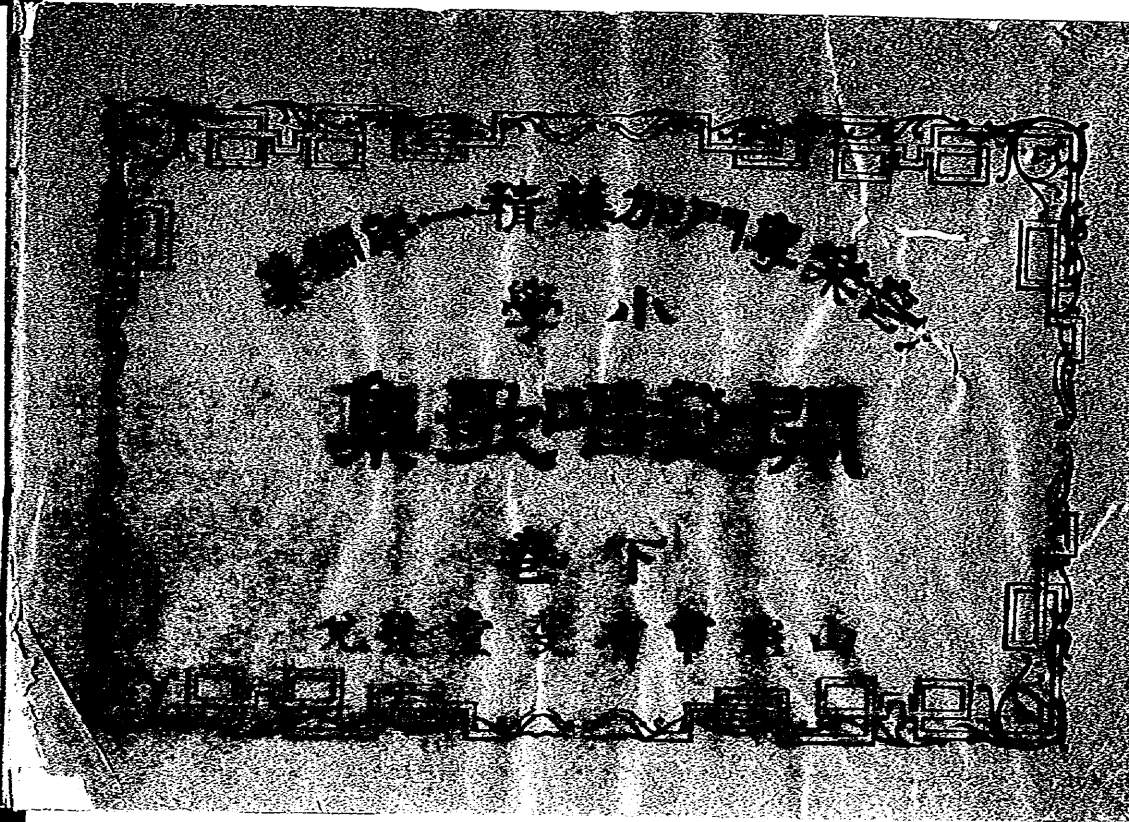
允發堂 斐有市形山

W25188/23



- 第一 志望電燈
- 第二 謙のみち
- 第三 うき地
- 第四 学びのすゝめ
- 第五 隅田川
- 第六 招魂社
- 第七 東孔を家

小冊子 昭和二十三年



第八いはへ

第九げんぎほしき

第十松のみどり

第十一紙北帽子

第十二日本どのくぬ

第十三卒業式

第十四まほ千巻

第十五学びのまな

第十六みまもよかけ

第十七錐の穂

第十八棠ゆくはせ

第十九ほあびの玉

第二十乱師北忍

第二十一春北けし人

第二十二別道のうた

以上

第一

第一 志下ゆきほころる



1 志 下 ゆ き ほ こ ろ る
2 ホ タ ル フ ア ツ メ テ マ ナ ビ シ ヒ ト ハ



そ の あり は そ の ま ま よ に こ そ せ
そ カ リ ハ ソ ノ マ マ ミ ニ コ ソ ソ ラ セ

第一 白雪ほころる

一 白雪ほころる

人は。それ名はそのまゝ

世お出をてらせ。

二 螢をあつめて。ほなび

心とは。光りはそのまゝ

身にこそほなびはせ。

第二 海ごのこち

第二 珠のみち

一 川はりいえずあざむらず。
 ままどのこちを海もるべ。
 こちをやすくもたんまは。
 海ごのこちを海もるべ。
 原を大のこちを化んま。
 珠のみちを海もるべ。
 ルもあーたもあはりあく。
 ままどのこちを海もるべ。
 いのある事ふあふとして。
 海ごのこちを海もるべ。

第三

うさぎ

うさぎよ うさぎよ かにみて ほしる
 ムカハツヨ カハツヨ ナニミテ ウタフ

こやまにのぼりて さえゆく つきの
 ヤナーギノモトニテ サエユク ツキノ

くもまにかくれぬときこそよけれ
 ナガールルシミーツニウツルヲヨケレ

さやこもどもどもあそべやあそべ
 フヤコモ トモードモウターヤウタヘ

第三 うさぎ

うさぎよ うさぎよ かにみて
 ほしる。小山の雲を
 さえゆく。月の。ツキノ
 かくれぬときこそよけれ。
 おやこもどもどもあそ
 べやあそべ。

二かは何よ およ見えて
 うたふ。柳花もさか
 ぎえゆく。月花。あ
 ーみづりうはるを
 よけれ。おやあそ
 うた(やうた)。

第四 ほまびたすめ

うめや さくらは はやちりて もみち かわむる ほごもか
 ユビヲ ササレン ソノヲリ ハ クイカナ シメドカヒゾナ

く けきは ぶりきて としくれぬ あすを たのみて
 キ シバシノホドモ アダニセズ ヲシヲ ウケテ

わする る な つきは ひとを またぬかり いつしか
 モノ オボヒ マーナビハゲマバノナツビニ カシコキ

としの ちつそへて せろかの ものとよのひとに
 ヒトト ナリヌベシ マーナビ ハゲメヨワラハタチ

第四 學問のそとめ

一 梅やさくらにははやちりて。紅葉
 なるむるほごもかく。ゆきは
 ぶりきて年くれぬ。あすを
 たのむてわする。あ。ほ。日は。人を
 まいぬ。まの。いつ。り。年の。教
 そへて。どろ。の。世。の。人。ふ。
 け。む。い。ま。ん。その。ち。う。い。く。
 の。あ。い。か。ひ。ぞ。あ。ま。い。あ。は
 ーの。程。も。あ。い。お。せ。ず。教。を
 う。けて。も。の。お。不。え。学。を。げ
 ま。は。後。竟。の。い。ま。ん。を。ぬ
 へ。学。び。ま。げ。め。あ。ら。は。だ。ち。り。

1. 2. 3.
 がキニ ノルハ ギラニ
 ヲヲヘ ナタヲ ウクモ ヨホヘ
 ラヲサ ツシラ リサト ノカタ
 スヤヲ メクス アツマ タマロ
 マオナ アツマ カヤモ ノナナ
 テレノ ハトル リリト
 テカイ ヘメタ キコタ カケメ
 スワダ ムミシ カホハ ユカシ
 ヲニフ シガカ キサノ ギヨノ
 チコヲ ノマヤ ベイキ
 ノマヤ イツオ
 イツオ

第六 志まふんや

第六 招魂社

一いのちをすててしますらどが。
 たてーむくえはあめはちの
 あるべきかぎりかゝらつた。
 いづきやのんれちのせか。
 二妻がよわのせ親とを。君の
 心宿とはくーたる。そのいで
 ほこそ山ざかへらのちれを
 りけてあちかほせ。
 三親きすふだにれ名とさいへ。
 のちかーたるますいとは。
 錦乃をこともろせもふ。
 國の志げめとありぬー。

第七 阿づま花世

1 ハナサカバ
2 きよらかに

ハナサカバ
きよらかに

アツマノサクラカヨシノヤマ
はねぞつーぐるうぐひすの

ソノハナヨヨマデララステナ
こーるものどけきにのた

ママ ナビノハナモカクナシラ
あをびのはあせかしたふあシリ

第七 東の花

一 ともなうらば。ともなうらば。

阿づま花世のうらやの

やま。それ花世を遊んでゐる。

學びのともなうらば。

二 きのよからか。おとらからか。

初音をたてる響の聲も

それけき花のおと。字の

ともなうらば。

第八 いはへ

1 いはへ いはへよみをとをたててわがきみ
2 いはへ いはへヨヨロツヨマデトワガキミ

いはへ ともとも うたへよ ドン ドン ドン
いはへ ヒトヒトウタへヨ ドン ドン ドン

第八祝

一祝(いはへ)よ。旗をたてよ。

我の君いよ。おしめし

うた(よ)。ドンドンドロココ

二いよ(祝)よ。業代までと。

おのきみいよ。ひとく

うた(よ)。ドンドンドロココ

第九 げふさま 満一歳

第九 げふさま 満一歳

リもケリて	ハとくろク	メるノシリ
ナをヌフも	キン申礼ト	タツ子ツナ
ミチリやは	トまゝがゴ	ノたカクシ
イのグチい	ルしすらル	ニち口けイ
へいッウヤ	アをすむワ	クラクかへ
ハもヲモは	ノんとはヲ	ノツハもハ
キゼカヲひ	キましろケ	トツロゼキ
シ(一)シ(一)	一(一)一(一)	一(一)コまし
マレナモほ	テせらむタ	モトトヤマ
サガノキ	ルかたふモ	ノツフのサ
イのリロい	クにぞかカ	セツカとイ
ニ(一)ム(一)の	セ(一)レ(一)ダ	カホ(一)ニ
ゲねケシネ	ヨホワむア	ワホムひゲ

第九 實ふさま 一歳

一 げふさま 一歳は魚はあり。よせくるてぎのあるとまは。あふ日れとどの國はたため。たのめををもいれちをも。あふおね 一まんた 一まどと。大げくおづをうちたはる。けむりの井をくぐりぬま。おまをさすらとすくゆく。むふふあろはるがねれ。博の門をもうちやぶり。向ふまはむらうがまは。人の凶さをもけくけり。其のまほひはやをこして。あふおも 一まをあるぬく。げふさま 一歳はあり。

第十 柿のこぼり

1まつのみどりあはるくれば かはらぬいりあ
 2クモリモアヘズヲリシグレ モコヤトトモニ

ひとしかに なをもまさるるものくら
 フルサトノ ヨシノヤーマノコ子アラシ

ふえのひびきやつまごとの しらべのどけき
 サムクモヒゴロニナリユケバ タマノヲトーキテ

きみがよ ちよわ やちよわ さかゆふ
 シモムス ツキノヲモガケノヘノツ

第十松のこぼり

一松のみどりも表りしせば。
 かあらぬいろもむごころあ。
 あともまさるるそはのそら。
 ふえのむらさきやはまはげしの。
 子代もハあよも葉えあん。
 ニ々もりもあはずやりあくれ。
 もみぢらたもさふなる葉れ。
 新緑の山みねあ。
 空くもむごころありゆけば。
 玉のさくらてきとむすぶ。
 月のやまのさくら花のはゆ。

第十一 かみればぼり

カテてぞ
ハイリー
ノミイ
ミスメ
カスセ
ニニの
シサヤ
ウクン
パイぢ
ノハの
ミ一
一ロ
カタ

ちてトガ
もせレシ
せよトリ
んしチ
けせウ
しにニ
りまい
くとダ
つひシ
てのリ
にくタ
けアイ
たおテ

トヨフリ
一モつ
ウトび
イロけ
タモさ
ノてと
ンメゲ
ホス一
ニスあ
ソヤに
コメホ
レス一
ワスタ

第十一紙の帽子

かみのぼり〜おのみれは〜
 たけおぼり〜けんをもち。
 おこそ日本に大さきりや。
 冬席ハいくさすみいで。
 わくのゑごまおせ〜よせて。
 すめやすめをれごもよ。
 てきのぢらんやおせあひりて。
 家あ〜り志だひまうちをせぞ。
 だんおんあおしてさけをけし。
 むきやにんぢまりの大將や。
 ありておたくかい心たり志の。
 ぼひおどりお小きいけり。

ケレソク
ユブミヨキ
ヤヤギヒ
クケホクミ
ユウオカア
フチヨハテ
ノフメモ
ノトノ
モノツモト
トチヨハモ
マガメナ
一口トガ
ヤクツメウ

ゼニレレニ
カマナナミ
ツヤチヤノ
キノクシ
オノイイ
ノカハル
ミニノアキ
スビカ
ナカモカタ
クカシリ
マモゲサヨ
カサマ
サクサイヤ

ニチモク
ソダリハナ
イギムヘ
ラルゲクダ
アツヒツ
ククダ
ハクビハマ
ラナ
ウアクミヨ
ルルニノチ
スガラキヤ
ラシヨ
ヨムソニチ

ガンガモテ
ラナヲユ
シハラヤ
ミラスニテ
イハマタ
テニノテ
ヒモリヘ
カーギノ
ムトカソモ
キローヲト
ユモヲリマ
一ガ一カ
イイケヒヤ

第十二 日本との比較

第十二 日本との比較

一
 日本との比較
 浪のおきつ風よするはの荒れそが
 いゆきむつひていみーららのころがね
 のぶねうちやぶら。雲の雲り。雲り。雲り。
 山。むらがるむらがるはるる。雲り。雲り。
 いさむらむら。はら。はら。はら。はら。
 とはとめよ。ねは。ねは。ねは。ねは。
 はらのち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
 ちげむ。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
 ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
 うひある。い。い。い。い。い。い。い。い。
 み。み。み。み。み。み。み。み。み。み。み。み。
 く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。く。
 何。何。何。何。何。何。何。何。何。何。何。何。
 い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
 ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
 ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

第十三 卒業式

マ ナ ビ ノ ニ ハ ニ オ セ タ チ シ の
 あ ら ひ お ぼ え し み ち ミ ち の

チ シ キ ノ キ ギ ノ ト シ フ ヘ テ
 ひ か り も ど も に か が や の ん

エ ダ モ シ サ カ ヘ ハ ナ モ サ キ
 か へ れ や ど も も ぶ る さ ど へ

ミ ノ ル ケ フ コ ソ タ ノ シ ケ レ
 に し た の き ー ぬ を か き ね き て

第十三 卒業式

一 学びの庭におおいたち。

智識の末に、年を強て。

枝を―業へ花をさし。

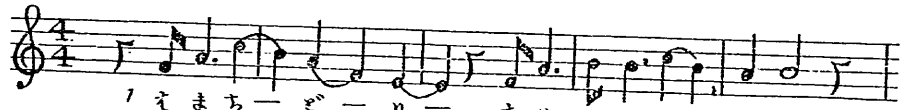
実のるふこそたの―けれ。

二 智ひひ覚え―通ふれ。

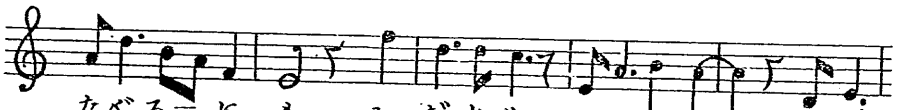
光りもとも不輝やがん。

り―きやととく―古里へ。

に―たのきぬと重たて。



「えまち—ど—り— 市とふみと—めて
ととサカ—タ—ノ— ヒカリノド—ケキ



たどる—に—も— みだれぬ—み—よの—かぎ
ミヨナ—レ—ヤ— フ—ミヨム—マ—ドノ—テリ



り— しら— — — — — れ— す—
モ— ソフ— — — — — ナ— すり—

第十四はまちどり

第十四 濱千鳥

一も海千鳥。あとふみとめて

たどはみも。みだれぬ此代の。

かぎり—らさず。

二玉さうこに。光ののけけ

此代あれや。女もむ密に。

てりもそふなり。

第十五 學の花

1 ミメグミノ マナビノ ハナ フの
 2 たぐひあ き めぐみの つや の

ラ シヘコ ニ ミヲムス バスル
 う りほひ て まあびの みちの

シハ リヤ ニゾーセラ ー ン

第十五 學の花

一みめぐみほ。まあむら

花とさ—ふに。みとむ

すばする。きやうにぞせん

二たぐひなま。めぐみほ

花のうらほひて。まあび

の—ちの花やさしくらん

第十六 みのちよみか

1 ミガケヨ ミガケル オヨタラズ
 2 トーシノ スグハカギリア

ウキビハ マタトカヘリゴズ
 マナビノ ミチハカカギリナシ

ヲシヘノ ミチノ オコタラバ
 ヒートノ イノチハ カギリア

イツイシカモトニカヘルチナ
 メイヨハモヨニカカヘリナシ

第十六 みのちよみか

一みかけよこのちよみか。おこた
 らず。厚日はまことかへり
 えず。教へこのちよみか。おこたば。
 いづらもとふかへるあり。
 ニや一のすぐははかぎり
 あり。学まなびのこのちよみか。限りあり。
 人のこのちよみか。限りあり。
 めいよはせよおかたなりあり。

第十七きりほ

1 イ トモミ-ダカ-キ ナツノヨ モー ア カツ-キ
 る く も に そ び へ- し た め や ま も- の ぼ ら- ば
 ト ホ キ フ ユ ノ ヨ モ- マ ナ ビ ノ タ- メ ニ 子 ム ラ ジ ト
 あ ど か こ え ざ ら ん- そ ら を ひ- た せ る う ち ば ら も
 モ モ ニ サ- シ タ- ル キ リ ノ ホ ノ- ス ル ド- キ- コ- ト キ
 わ た ら ば- つ ひ- に わ た る べ し- を し- の- み- ち も
 ツ ラ ヌ キ シ- イ サ ホ シ イ マ ニ シ ラ- レ ケ リ-
 か く て こ そ- ま あ び は げ め よ ひ ど- び ど よ-

第十七 鐘比穂

一いともみぢかき雙れ萩と。

曉きこと不れ冬之夜もまのまの

ためよねむらとんもむら

たる鐘の穂のせもらむとん貫

きーきとー今もきとせらり。

二雲ふそびへーたのや海も登るは

あどかきえざらんそらをひたせ

せる海もわらへばはえそ

渡るへねーのみぢもかして

あそもふそびへむらむら。

第十八 栄ゆくみよ

サカユクミヨノキミガヨーマ タダヨフカスミモ
 ハレワタル ハールルミツラノトキワカーゼ
 ターミノカマードアケムリターツ ミーヨノナニオフ
 アキラケーク ヲサマルミドシハヨロツヨマデモ トツクニ
 ビートモツミアーヒ フーカキメグミヅアリガタキ

第十八 栄ゆくみよ

一 さかゆくみよの君の代や。
 たらす小童もはきあはる。
 ちるみそふれとさつあせ。
 たこののまごれけむりたつ。
 とよれあはなまあまはけく。
 活まるは年は新代までも。
 外國をともむはとあひ。
 どののちもぞあつこの世。

ミガケヤ ミガケヤ ヒトビト ヨ マナビノ タマノ

クモリナク クモラヌ ミヨヲ マスラヲ ガ

ココロハカ ミノタマモノゾ ユメニモワスルナ

トキノマモ ツユナケガシソソノタマヲ

第十九 神宮のたま

第十九 学宮の玉

一みあげやまのまやんをよ。

まあまの玉^{たま}れんもりあへ。

くせらぬ^み代^よのまきん^たが。

あはは神^{たま}れ賜^{たま}ものぞ。

ゆめ^あも^かも^する^ま時^{とき}の^ま留^まも。

は^あや^あけ^がき^そそ^の其^{たま}玉^{たま}を。

第二十 ちののちん

1 大 ぶ い に ち れ し ま ち び の と も
 2 ホ タ ル ノ と カ リ ッ ム シ ラ ユ キ
 を し へ の に ほ に も つ む と し つ き
 ワ ス ル ル コ ト ナ ク ワ カ レ シ ノ チ キ ハ
 ワ が シ ノ オ ン ハ 一 ワ シ ル ナ ヨ
 わ が ち を よ も に 一 が が や か せ
 ワ ガ シ ノ オ ン フ ワ ス ル ナ ヨ
 み が せ こ そ ち げ テ ひ か リ ヰ け

第二十 赤原の恋

一 たがひやあまのこ 学びの友
 を 一 の 恋もはむ年時
 我師此恋はあするあまのこ
 一 此おんをわまゝるなまら
 二 螢此光りほむ向ふわす
 一 向ふこをかく別れ一 恋は
 一 我名を四方ふかぢやのせ
 一 我とこそあぢくひよりゆけ

ハールノケシキヲナガムレバ　　デニメヅラシキー
 ヤエザクラー　　ヒトエニナラースーアスカヤーマ
 タモトニラツルニホヒマーダ　　ラヘノノヤマーノ
 イトサクラー　　ニシキヲヨソフツキノカケー

第廿一 春のけしき

第廿一 春のけしき

一雲のけしきとながむれば

実不めづらしき八重桜

雲と小ちいさな花の山

たもとふりける白ひまで

上野の山はなごころ

錦をよそふ月のかき

Second system: 1. ア フ テ ワ カ レ ノ ア ル ナ ラ バ
2. ひ と の つ と め は き ミ の た め

Third system: ワ キ カ レ テ ナ ド カ ア ハ ガ ラー ン
ミ ミ キ ツ ク す は く に の た め

Fourth system: ケ フ ノ ワ カ レ ハ ア フ コ ト ノ
キ ミ と く に と の た め に こ そ

Fifth system: ハ シ メ ト ワ レ ハ イ ハ フ ナー リ
ビ と の つ と め は た の し けー れ

第二十二 別れのうた

第廿二 別れのうた

一 おふてあのをさし有あふば。

別れてあとか何そざいらん。

りふのあつれは阿ふ事れ。

は—めとあはひまふなり。

二人のほとめはきこれたため。

君小法をすは國れと免。

地と國とれたためふあそ。

人のほと免は樂—けれ。

